

平和について

一般社団法人日本想続協会
代表・税理士 内田麻由子

いま平和憲法が脅かされようとしています。聖路加国際病院の日野原重明先生は、「子どもたちにいのちと平和の大切さを伝えること」を「新老人の会」の使命に掲げています。日野原先生は、「シニアの老人は、あの恐ろしい戦争やテロの体験を語り伝え、一人ひとりのいのちが何ものにも代えがたいものであるということを、次の世代を担う子どもたちに伝えていかなければなりません」と仰っています。(※1)

平和学においては、平和の反対概念は戦争ではなく「平和ならざる状態」であるといえます。たとえ戦争状態になくても、飢餓や病気で大勢の人が死んでいく、ひどい人権侵害や差別がある、そのような社会を「平和」とは呼べないのではないのでしょうか。今月は平和について考えます。



● チャップリンの「独裁者」

映画『独裁者』で、チャップリンは、独裁者ヒンケルと、迫害されていたユダヤ人の一人二役を演じます。独裁者に取り違えられたユダヤ人が、大衆を前に演説する有名な場面で映画は終わります。少し長めになりますが、その一部を一緒に読んでみましょう。

「私たちは、みんなお互いを助け合いたいのです。人間とはそういうものです。私たちは、お互いの不幸ではなく、お互いの幸せのために生きたいと思っています。…中略… 人は自由で美しく生きていくこともできますが、私たちはそのやり方を忘れてしまいました。人間の魂は欲望に毒され、世界中に憎しみをまき散らし、ゆっくりと私たちを悲しみと流血のなかに追い込んでいきました。生活を豊かにするはずの機械が、逆に私たちを貧しくしています。知識は私たちに冷ややかな目を与え、知恵は私たちを非情で冷酷にしました。考えるばかりで、思いやりがなくなりました。私たちに必要なのは、機械ではなく、人間性です。頭の良さよりも親切と思いやりが必要なのです。人間らしさがなければ、人生は暴力的になり、すべてが失われるでしょう」(※2)

チャップリンの言葉は、70年前の第二次世界大戦の最中のことではなく、今の世界にも、そして一見平和に見える日本にも、そのままあてはまるのではないのでしょうか。

● 宮沢賢治の幸福論

賢治は「農民芸術概論綱要」のなかで「世界がぜんたい幸福にならないうちは個人の幸福はありえない」と述べています。「幸福」を「平和」と読み替えても同じことでしょう。「世界がぜんたい平和にならないうちは個人の平和はありえない」のです。互いに自分さえ平和ならいい、自国さえ平和であればいいと考えている限りは、いつまでたっても平和は訪れません。

電車の車内で、誰かがささいなことで言い争いをしていると、それを聞いている周りの人たちまでもが憂鬱な気分になりますね。大人がばかげた喧嘩をしているのを見て、若い人はどう思うのでしょうか。都会では毎日のように人身事故で電車が遅延します。「まったく迷惑なことだ」と舌打ちをしますか。それとも「事故なのか自殺なのか、家族はいるのだろうか」と思いますか。

いま日本で起きている、いじめ、パワハラ、自殺、孤立死、虐待、子どもの貧困など様々な社会問題についても、「私には関係ない」というのではなく、自分の問題として共に考えることが大切ではないでしょうか。先日、自死遺族の支援をしているNPO法人セレニティ代表の田口まゆさんと対談したのですが、まゆさんは「他人事を自分事に」と仰っていました。

● 平和を求める祈り

マザー・テレサは、インドの貧しい人たちのために一生を捧げました。ノーベル平和賞の授賞式スピーチの冒頭で、マザーは次の祈りを捧げました。

「平和を求める祈り」

わたしをあなたの平和の道具としてお使いください
憎しみのあるところに愛を いさかいのあるところにゆるしを
分裂のあるところに一致を 疑惑のあるところに信仰を
誤っているところに真理を 絶望のあるところに希望を
闇に光を 悲しみのあるところによろこびをもたらすものとしてください
慰められるよりは慰めることを 理解されるよりは理解することを
愛されるよりは愛することを わたしが求めますように
わたしたちは与えるから受け ゆるすからゆるされ
自分を捨てて死に 永遠の命をいただくのですから

● 私たちにできること

平和はどこか遠い世界にあるのではなく、私たちの心の中にあるのですね。私たち一人ひとりが、心をいつも平安に保ち、与えられたものに感謝し、愛と思いやりに満ちた行動をするならば、それがそのまま平和な社会への第一歩となるのではないのでしょうか。

マザー・テレサは、「どんなお手伝いをすればいいのでしょうか」と尋ねる人たちに、「自分の子どもや夫や妻に、何か素敵な言葉をかけることからはじめなさい。あなたがいる社会、職場、学校などで、困っている人を助けてあげることからはじめなさい。どんなことでもかまわないのです。まず実行に移しましょう」とアドバイスしています。

※1：小冊子『「新老人」の生き方とは』新老人の会事務局

※2：『チャップリン—ほほえみとひとつぶの涙を—』ラジ・サクラニー作、上田まさ子訳